



はじめに

JICAが2008年10月、日本のODAを一元的に実施する機関として新たなスタートを切ってから、すでに2年半が経過しました。

この間JICAは、開発事業の立案、実施、フォローアップのすべての段階で現場のニーズに対して、技術協力、有償資金協力、無償資金協力を効果的かつ機動的に実施することに力を注いできました。国の内外からは、こうしたJICAの活動に対して高い関心と強い期待が寄せられています。

JICAはこうした内外の要請に応えるにあたり、従来以上に、事業成果を適切に把握し、今後の事業をよりよいものへと改善していくことを期待されています。

事業のさらなる改善を図るには、その成果が適正に評価され、これを通じて得られた提言や教訓が事業現場へとフィードバックされる必要があります。また、事業評価の結果が国民の皆様へも適切に公開されることで、今後のJICA事業の推進について皆様のご理解を得ることができます。JICAではこうした考えに基づいて事業評価を行っております。

本書はJICAの行う事業評価のうち、2009年度に外部評価者に実施いただいた案件別事後評価の概要を中心とし、取りまとめたものです。

本書の内容を広く共有し、皆様のご理解の一助となることを願うとともに、今後のJICA事業に対するさらなるご支援、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

2011年3月
独立行政法人 国際協力機構
理事長 緒方貞子

緒方貞子